

伊藤長七 革新的な教育

四賀公民館
生きがい講座

フォーラム向け紹介

諏訪

諏訪市四賀公民館は27日、生きがい講座「伊藤長七が願ったこと」を同館で開いた。中洲公民館社会教育指導員の河西敏夫さん(67)が、四賀出身の教育者、伊藤長七(187

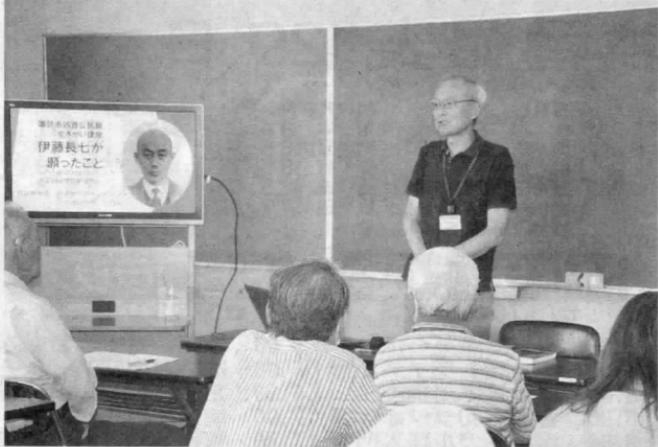
7~1930年)の生い立ちや教育理念などについて、時代背景も説明しながら紹介。住民ら約20人が参加し、故郷の偉人ついて学びを深めた。同講座は、8月6日に開かれる「伊藤長七フォーラム」

n諏訪(諏訪教育会、諏訪寒水会主催)

する革新的な教育を提唱した「教育者」と説明。大胆な行動が象徴的といい、海外の教育現場を視察する欧米諸国の出張旅行でアメリカを訪問した際、大統領に会いに行ったエピソードを紹介し、「周りの人間はハラハラしていたのではないか」と話した。

伊藤長七は多くの著名人と関わりがあり、教え子に岩波書店創業者の岩波茂雄や詩吟の木村岳風などがある。嘉納治五郎や夏目漱石とも交流があったといい、「夏目漱石の小説三四郎に出てくる体育教師が伊藤長七ではないか」と推測した。

河西さんは伊藤長七の理念について「今の時代にも通ずるものがある」とし、「伊藤長七フォーラムにもぜひ来てもらえれば」と呼び掛けた。



伊藤長七の革新的な教育や思想について説明する河西さん

は、伊藤長七を「画一的で厳格な教育が主流の大正時代に、子ども

の関心を尊重